

第2編 基本構想

第1章 高鍋町の将来像

第2章 基本方針

第3章 基本目標

1. 目標とする高鍋町の将来像

【高鍋町の将来像】

歴史と文教の城下町 たかなべ

～ 対話でつながる 豊かで美しいまちづくり ～

高鍋町には、古くから「歴史と文教の町」としての伝統があり、学問の内容を高める前に人間としての教育を重んじた高鍋藩第七代藩主秋月種茂公が開いた藩校「明倫堂」の精神や孤児の父と言われる石井十次の人間愛など、多くの先賢により築き上げられてきた本町特有の精神文化があります。

「歴史」とは「現在と過去との対話」であり「未来へ導く道標」であるという観点で捉えるならば、「歴史と文教の町」としての本町の歴史は、改革の努力を積み重ねてきた歴史であり、文教は改革に努力する風土の中で人財を育て導くという意味に捉えられます。

この風土の中で、若者がチャレンジでき、やりがいをもって働くことができる場があり、子育てや教育、健康長寿などに最適な環境を兼ね備えたまちにしていくことは、まさにこれからの人口減少や少子高齢化社会における高鍋らしいまちづくりであると考えます。

また、対話によって自らがまちの未来を見だし、みんなでできること、家族など小さいグループでできること、一人からできることといった各場面で、町民みんながまちの主体者となって行動していけば、自ずと高鍋らしい豊かで美しいまちがつくられていくのではないのでしょうか。

これらのことから、第6次高鍋町総合計画では、目標とする将来像を「歴史と文教の城下町 たかなべ ～対話でつながる 豊かで美しいまちづくり～」と設定しました。

2. 高鍋町の将来人口

本町の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が平成25年3月に行った推計によれば、2060（平成72）年の人口は、12,935人とされています。

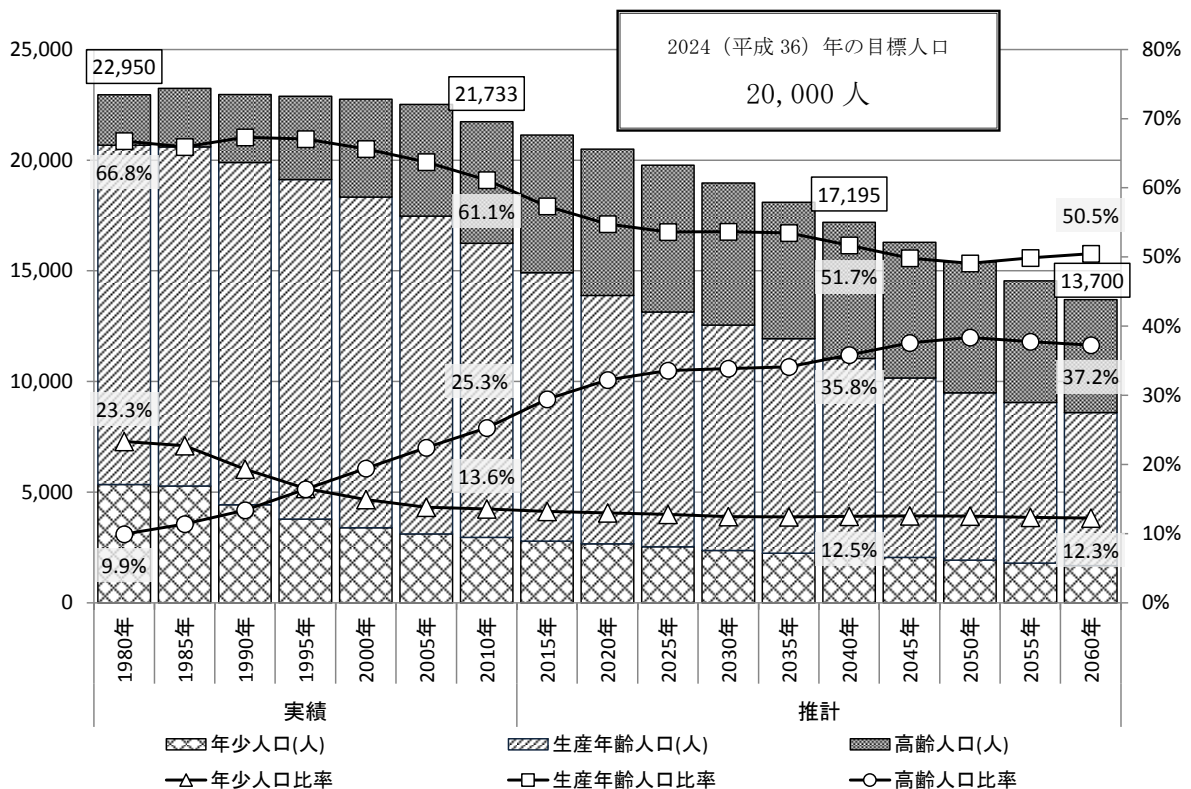
現在と比較して約8,000人（38%）もの人口減少は、経済や町民の暮らしに大きな影響を与えるおそれがあると考えられます。このことに対し、できるだけ早期に人口減少に歯止めをかけること、また当面の人口減少の進行と人口構造の変化を前提に、社会の仕組みを捉え直していかなければなりません。そのためには、この課題に対し、高鍋町の強みや特徴を生かした人口減少対策を推進していくことが必要となります。

平成27年10月に策定した「高鍋町人口ビジョン」では、人口減少対策に必要な様々な施策を講じることにより、2040（平成52）年の人口を17,195人、2060（平成72）年には13,700人となる人口の将来展望が示されました。

このことから、第6次高鍋町総合計画の最終年度となる2024（平成36）年の人口は、人口ビジョンとの整合を図りながら目標とする将来像に向かってまちづくりを力強く進めていくことにより、20,000人を目標とします。

人口の将来展望（年齢3区分別人口及び割合）

※27年10月策定「高鍋町人口ビジョン」より

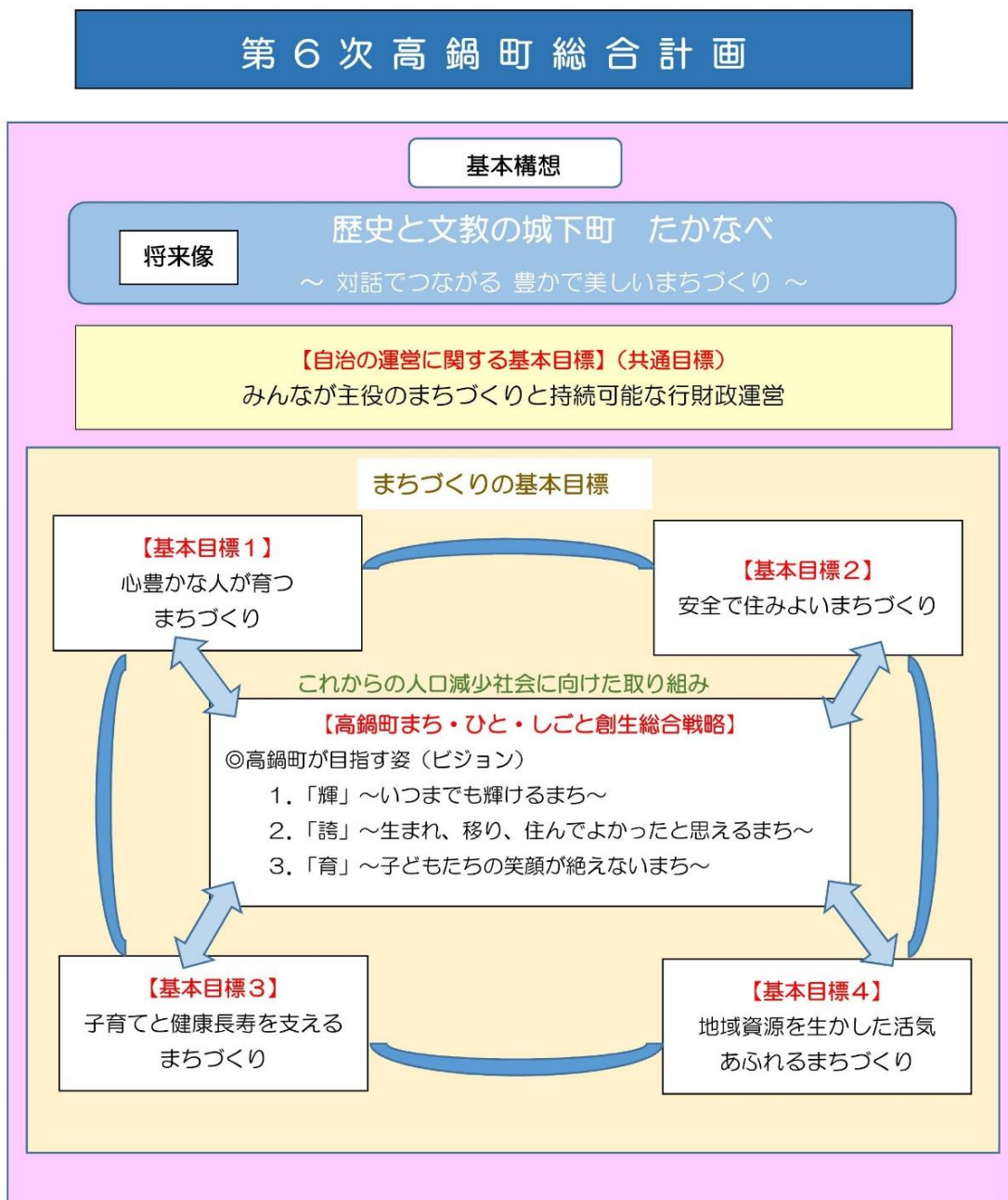


第2章 基本方針

本計画の将来像の実現にあたっては、町民と事業者、行政との連携は欠かせません。このことから、対話を通じてそれぞれの特性を結び付けることで適切な役割分担を図り、町民一人ひとりに「自分たちのまちは自分たちで形づくり」という協働意識が醸成されていくことで、みんなでまちづくりを推進しながら幸せを実感できるまちを目指すこととします。

また、本計画は、自治の運営に関する基本目標と4つのまちづくりの基本目標を掲げるとともに、「高鍋町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の各施策を包含する計画として位置づけます。

《計画概念図》



【高鍋町まち・ひと・しごと創生総合戦略】

高鍋町が目指す姿（ビジョン）

- 1 「輝」～いつまでも輝けるまち～
- 2 「誇」～生まれ、移り、住んでよかったと思えるまち～
- 3 「育」～子どもたちの笑顔が絶えないまち～

1 「輝（かがやく）」～いつまでも輝けるまち～

輝けるまちとしてまちが成長し、その姿を保ち続けるには、人口の確保が必要であり、そのためには、労働・雇用や結婚・出産・子育てなど、住民生活に関わる分野の環境が整っていなければなりません。

この考え方に立ち、関係する分野における施策を力強く推進しながら人口減少を克服し、将来にわたって元気で活力あるまち「高鍋町」を目指します。

2 「誇（ほこる）」～生まれ、移り、住んでよかったと思えるまち～

まちの創生には、まちに住む人に「ここに生まれ、ここに移り、ここに住んで本当によかった」という思いを持ってもらい、まちを愛し続けてもらうことが大事です。

そのような気持ちが育まれるために必要な取り組みを進めながら、生まれ、移り、住んでよかったと思えるまち「高鍋町」を目指します。

3 「育（はぐくむ）」～子どもたちの笑顔が絶えないまち～

子どもたちが、笑顔で、元気に生きいきと学び、遊び、充実した毎日を送る姿は、まちの活力につながります。また、いずれは、高鍋町のまちづくりのためにその力を活かすことができる人として成長したいという思いを育ませ、その過程を支えることは、人口減少の抑制に大きな効果をもたらします。

将来のまちのさらなる発展のためにも、子どもたちの笑顔が絶えないまち「高鍋町」を目指します。

第3章 基本目標

本町の将来像の実現に向けて、以下のとおり町政全般にわたる基本目標を設定します。

【自治の運営に関する基本目標】（共通目標）

みんなが主役のまちづくりと持続可能な行財政運営（対話と協働、行財政）

【まちづくりの基本目標】

1. 心豊かな人が育つまちづくり（歴史、伝統・文化、教育）
2. 安全で住みよいまちづくり（環境、景観、安全・安心）
3. 子育てと健康長寿を支えるまちづくり（福祉・保健・医療）
4. 地域資源を生かした活気あふれるまちづくり（産業、観光）

共通. みんなが主役のまちづくりと持続可能な行財政運営

対話を基本に、みんなが主役となったまちづくりを目指すとともに、その基盤・機運づくりを推進します。

また、将来を見据えた地域経営と財政基盤の強化を図り、持続可能なまちを目指します。

◆共－1 町民との協働の推進

対話をもって町民や団体の自発的な活動に寄り添いながら「人間力」「地域力」を生かしたまちづくりに取り組みます。また、みんなでまちづくりのビジョンを共有し、協働にあふれるまち「高鍋町」の創造を目指します。

◆共－2 効率的で信頼される行財政運営

事務事業評価制度による成果やコストなどの検証結果を踏まえ、事務改善や各種計画・予算への反映を図ります。また、ふるさと納税制度のさらなる推進に取り組み、自主財源の確保に努めます。

◆共－3 広域行政の推進

ごみ処理事業や消防事業等をはじめとした各分野での連携を図っている西都児湯地域について、新たな課題に対しては積極的な拡充を図り、連携中の事業については業務内容の充実や効率化に努めます。また、様々な地域課題や社会ニーズに対応できるよう、県域を越えるなど幅広い連携体制の形成の推進を図ります。

1. 心豊かな人が育つまちづくり

本町の持つ歴史や伝統・文化などの地域資源を積極的に活用し、郷土を誇りに思う心豊かな子どもが育つまちを目指します。

また、家庭・学校・地域が連携・協力し、地域全体で子どもを育てるまちを目指すとともに、さまざまな分野で活躍する人材の育成を図ります。

◆ 1-1 歴史と伝統・文化を生かしたまち

各種文化財や民族資料、伝統芸能や歴史総合資料館等施設の保護・継承、さらにはこれら地域資源の活用を積極的に図りながら、みんなが誇ることのできる魅力あふれるまちを目指します。

◆ 1-2 生きがいを持って学び、やる気を生かせるまち

本町には、公民館教室をはじめとした学びの場や、スポーツに親しむことができる活動の場が多くあります。この恵まれた環境を生かしつつ、高度化・多様化する町民の学習ニーズに応えられるよう、講座等の内容充実や拠点施設等の計画的整備を目指します。

また、町民の「やる気」を尊重しながらその力が最大限に発揮できるまちづくりを目指します。

◆ 1-3 次代を担う気概のある子どもを育てるまち

本町には、高鍋藩藩校「明倫堂」で培われた明倫の伝統が脈々と流れており、町教育委員会の教育基本方針の努力目標の最初には、「明倫の伝統を受け継ぎ、学問を愛し、教育を重んじる、優れた知性をもつ町民の育成をめざす」「石井十次の人間愛の精神を学び、道義を究明し、豊かな精神と実践力のある町民の育成をめざす」と掲げ、子どもたちにはもちろん、町全体への広がりを目指しています。

この目標を基本に、高鍋町の子どもたちが豊かな感性や人間性を備え、学力・体力・たくましく生きる力を身につけるとともに、郷土に誇りと愛着を持った心豊かな人として育つまちを目指します。

また、家庭・学校・地域が連携・協力し、みんなで子どもたちを守り、育てるまちを目指します。

2. 安全で住みよいまちづくり

本町の自然環境や城下町としての景観等の保全・活用をするとともに、町民の暮らしを支える住環境や上下水道などの生活基盤が整備された、環境に優しく快適に暮らせるまちを目指します。

また、防災・防犯体制のさらなる整備強化に努め、安全・安心なまちを目指します。

◆ 2-1 自然環境や景観を大切にするまち

本町が有する海・山・川などの豊かな自然、市街地周辺にあるのどかな農村風景、舞鶴公園や水を湛える城堀など、身近な自然環境や歴史や伝統・文化などの地域資源を保全・活用するとともに、これらの恵みを楽しみながら、美しく良好な景観を形成することにより、自然とまち並みの調和を図り、快適に暮らせるまちを目指します。

また、恵み豊かな地球環境を次の世代へと引き継ぐために、環境への負荷の少ない循環型のまちづくりを推進します。

◆ 2-2 生活を支える基盤が整っているまち

通勤・通学・買い物など日常生活に便利で安全性に優れた生活基盤の整備を進めるなど、快適で機能的な生活環境が整ったまちを目指します。

また、人口減少対策の一つとして、移住・定住にかかる受入体制や環境の充実を図り、人が人を呼びこむまちづくりを目指します。

◆ 2-3 災害に強く、生活の安全が守られているまち

町民の生命や財産が守られ、安心して暮らせる危機管理体制や消防・救急体制が整い、防災対策が充実したまちを目指します。

また、地域が一体となって防災や防犯、交通安全運動に取り組むなど、みんなで地域の安全を守り、安心して暮らせるまちを目指します。

3. 子育てと健康長寿を支えるまちづくり

福祉・保健・医療の充実が図られ、安心して子どもを産み育てられる子育て支援の充実したまちを目指します。

また、高齢者や障がい者等が地域で生きがいを感じながら生活ができるよう、共に支え合う地域福祉が充実したまちを目指します。

◆ 3-1 人にやさしいまち

安心して子どもを産み育てられるとともに、高齢者や障がい者をはじめ地域で暮らしているみんなが自立した生活を送ることができるよう、共に助け合い、支え合うことができるまちを目指します。

◆ 3-2 健康に暮らせるまち

町民が生涯にわたり健康で豊かな人生を送ることができるよう、主体的な健康づくりや疾病予防、健康管理を行うとともに、健全な食生活を送り、スポーツやレクリエーションを楽しめる環境が整っているまちを目指します。

また、みんなが安心して医療が受けられる環境の整備や救急医療の充実を目指します。

4. 地域資源を生かした活気あふれるまちづくり

本町の経済を支える農林水産業や商工業、観光などの産業が活発に営まれるとともに、みんながいきいきと働き、活躍できるまちを目指します。

◆ 4-1 活力ある産業が育つまち

充実した生産基盤と多様な担い手により、本町の豊かな自然環境を生かした農林水産業が営まれ、地域に根ざした地場製品の消費拡大と高鍋ブランドの確立・向上を目指します。

また、商業の活性化を図るため、関係機関と連携を図りながら魅力と個性あふれる商店

街づくりを目指します。

さらに、農林水産業・商工業・観光レクリエーションや、本町が有する自然・歴史・文化・民俗芸能など、地域の人材・技術・産業を効果的に結び付け、相互の補完効果と相乗効果を高めるとともに、拠点施設を整備・活用して「たかなべ」らしさを創造し、元気のあるまちを目指します。

◆4-2 活気があふれ、いきいきと働けるまち

本町の経済を支える農林水産業や商工業、観光などの産業は、人々の働く場を確保するとともに、様々なサービスを通じて町民の快適で便利な生活を支える基盤でもあります。

この基盤をもとに、本町が経済的にも雇用の面でもバランスが取れ、さらに活気あふれるまちとして発展していけるように、既存企業の育成・強化はもとより、本町の特性を生かした企業誘致活動を積極的に推進し、女性や高齢者をはじめ、みんなが持てる能力を発揮できるような雇用の場の確保を図ります。

◆4-3 観光交流のまち

本町には、学術的にも貴重な動植物が存在する高鍋湿原などの自然資源、国指定史跡の持田古墳群を代表とする文化資源、高鍋温泉・蚊口海浜公園・舞鶴公園などの観光資源、天然牡蠣・焼酎・野菜などの生産資源、質・量ともに充実した社交業・飲食業など、豊富な地域資源があります。

これらの地域資源を生かし、観光交流のまちとして魅力を発信し続けられるよう、みんながおもてなしの心を持って来訪者を迎えるまちを目指します。